

Hand in Hand



2学期前半を振り返って

12月22日(水)に行われた学年集会では、各クラスの学年委員さんから「2学期前半を振り返って」と題して発表してもらいました。

マイロケットという目標を掲げ、この2学期前半を皆さんはどのように過ごしてきたでしょうか。2学期前半は、特に大きな行事はなかったものの、いじめ防止活動を行い、それぞれがいじめの危険性について考え、今後の学校生活をより良くする活動にできたのではないのでしょうか。また、縦割りでの活動により、後輩との関係も深まったのではないかと思います。今後も、いじめのない学校づくりを目指し、日々の生活をより良いものにしていきましょう。

では、2学期前半の1組の良い点・課題点について話していきます。まず良い点についてです。男女仲の良いクラスだと思います。休み時間には、男子だけや女子だけのグループではなく、男女一緒にいるという場面が多く見られ、仲の良さがうかがえます。また、テスト前には男女関係なく分からない問題について教え合ったり話し合いながら、お互いの学力向上を目指しているという場面も見られました。今後も、男女仲の良さを生かして、学力やコミュニケーション力の向上を目指していきましょう。しかし、この仲の良さが裏目に出てしまっていることもあります。1学期から引き続きの課題ではありますが、話に夢中になり過ぎて、時間をあまり気にせず、移動や着席が遅くなるということです。一人一人が自分自身の生活をもう一度見直し、時間に気づいたときには周りに声を掛けたり、自分から行動に移したりなど、周りを引っ張っていけるよう行動を心掛けるようにしましょう。

2学期も前半が終わり、後期課程まであと3カ月ほどしかありません。12月の目標にもあった“自己意識改革”をしていくことが、この残り3カ月の期間では必要となっていきます。一人一人が自分自身の行動を見直し、良いところは伸ばし、悪いところは改善していき、後期課程への準備をしていきましょう。

1組

2学期が始まり2カ月。早くもその前半が終わろうとしています。と、いうよりも後期、つまり高校生に僕たちがなるまであと3カ月強と言った方がわかりやすいでしょうか。皆さんはこの9カ月で自らのロケット、「マイロケット」を作り、未来に向けて上手く操縦できているでしょうか。

さて、以前行われた尚志式で生徒代表の加藤さんが言っていた福澤諭吉の言葉を皆さんは覚えていますか。「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む」というものです。僕たちは今後高校生という立場になり、勉強に部活動、その他様々な活動でさらに忙しくなるでしょう。しかし僕たちは前を向いて進み続けなければなりません。一度発射したら止らないロケットが如く絶え間ない努力を心掛けていきましょう。また、今の僕らの学校生活には様々な課題があるのも事実です。具体例は他の3人が言ってくれると思うので僕からは控えますが、あと3カ月でそれらをできるだけ直し、共に成長して後期課程に臨みましょう。

さて、2組の皆さん!「愛と友情を描いた小さな青春の物語」にピリオドをうつ準備はできているでしょうか。今日までの9カ月、体育祭での球技優勝や合唱祭の練習。そして勿論日々の学校生活で沢山の最高の思い出を作ってきました。2組が他のクラスに誇れる良いところ。それは「誰とでも話せる」ということではないでしょうか。得意苦手はともかく、話し合う場になったら積極的に発言したり、コミュニケーションをとったりとグループ化のない最高に仲の良いクラスだと思います。そんなクラスこそが愛と友情を描いた小さな青春の物語の完成形であると僕は思います。しかし、なんとまだ研修旅行という一大行事が残っています。このクラスとして最後まで最高の思い出、小さな青春を味わえるように全力で当日を楽しめるようにしましょう。

もう3カ月、いやまだ3カ月も残っています。この期間で高校生に向けた最後の仕上げをして、いざ高校生になったとき、「自由に楽しく強く」生きることができるようになりましょう。

2組



まず始めに、3組の良かった点と改善点について簡潔に話したいと思います。良かった点は、様々な人とコミュニケーションをとり、クラスの雰囲気良かったことです。班活動やいじめ防止活動、席替えの効果のおかげか、クラスの雰囲気が明るく良い意味で賑やかだったと思います。改善点は、まだ自分を律してコントロールする部分が弱いところです。Chromebookの使い方、授業態度やうるさくなってしまふところは、まだまだ伸びしろがある状況です。

ところで、長期休みの前には必ずこのような学年集会がありますよね。1年生の頃から数えて、今回は11回目。つまり、学年委員の作文を聞くのも、先生方のお話を聞くのも11回目です。では、みなさんはどれだけ真剣に他の人の話を聞いていますか。どんな姿勢、心構えで聞いていますか。“慣れ”というのは恐ろしいもので、行き過ぎると気の緩みに繋がってしまいます。気を緩ませることも時には大切です。でもその尺度は自分でコントロールするしかありません。また、ぜひ何のために学年委員や先生方の話を聞く場があるのか、考えてみてください。「言われるうちが華」とも言いますが、後期になったら注意してくれる人が少なくなるので、より自立していかなければならないと思います。そのためにも、自分の意識を改め、より良くできるように努力することが大切だと思います。

なぜ私がこんな話をしたかということ、前よりも課題の改善率が小さくなったと思うからです。月目標を発表するときに言っている改善点を、もう少し意識して生活してほしいと思ったからです。1カ月後に振り返ったときに、「ああこの点、結構良くなったね」と言えるように、前期課程修了までの3カ月間、より気を引き締めて生活しましょう。また、今まで積み重ねてきたものは、確実に自分の力になっていると思うので、そこは自信を持って残り3カ月間も頑張っていきましょう。

3組

みなさんは、2学期前半はどのようなものになったと思いますか。これから4組の様子について振り返っていききたいと思います。以前4組でクラスの良い点、課題点について話し合いました。それを元に発表していこうと思います。

まず、4組の良い点として挙げられるのは、仲が良いということです。班で活動するときには、いつも賑やかで、互いに思ったことを言いながらも尊重し合っていて協調性があります。それに対して、課題点としては主に3つあります。1つ目は休み時間に密になっている人がいて、邪魔になっている点です。良い点として賑やかであることを挙げましたが、言い換えると騒がしく周りの人に迷惑を掛けていることもあります。これは1学期から言われていることですが、改善されていないので周りの人が注意などすることで改めることができると思います。2つ目は、授業中の積極性がないことです。休み時間は賑やかであるのに対して、授業中は先生の問いかけに対して答える人がいつも同じ人で活発とは言えません。3つ目はグループ活動のときの私語が多いことです。班活動の時には仲が良く活発に話し合いをしているのですが、その反面、授業の内容とは関係ないことで盛り上がっていることも少なからずあると思います。

前にクラスで話し合い活動を行い、良い点、改善点は一人一人がわかっていると思うので、良い点は継続しながらも、それぞれで意識を持って生活していきましょう。中学校生活も残り約3カ月です。自分が高校生になるんだという覚悟を持ち、やり残したことがないように、悔いのないように中学校生活を締めくくりましょう。

4組



内閣総理大臣賞受賞

先日、法務省から第40回全国中学生人権作文コンテスト（6388校から79万2451人が応募）の入賞作品が発表され、最優秀の内閣総理大臣賞に さんの「みんなのヒーロー」が選ばれました。おめでとうございます！ なお、 さんの作文が法務省のHPに掲載されています。ぜひ読んでみてください。

東大生との交流活動

12月11日（土）午前に、東京大学の学生団体「FairWind」に所属する学生さんとのオンライン交流活動が行われ、3年生からは9名が参加しました。学生さんからは東大の魅力（大学の授業・大学の最先端研究・東大のメリット・東大生の生活）の説明や、最難関大学を志望するにあたって有用な学習法などについてのお話がありました。また、ワークショップや個別相談会も行われたので、参加した皆さんにとって、今後の進路選択に役立つ情報を沢山入手することができ、大変有意義な時間になったのではないのでしょうか。